



平成 28 年 5 月 10 日

各 位

会 社 名 タカセ 株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 大宮司 典夫
(JASDAQ・コード9087)
問 合 せ 先 取締役執行役員管理本部長
笹岡 幹男
(TEL. 03-3571-9497)

特別損失の計上および繰延税金資産の取崩 並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 2 月 10 日に公表した平成 28 年 3 月期(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)の通期連結業績予想について、最近の業績動向のほか、特別損失の計上および繰延税金資産を全額取崩す見込みとなったことを踏まえ、下記のとおり修正することを本日開催の取締役会において決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正

(1) 修正の内容

平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 9,200	百万円 33	百万円 55	百万円 90	円 銭 9.05
今回修正予想 (B)	9,220	25	35	△230	△23.13
増減額 (B-A)	20	△8	△20	△320	—
増減率 (%)	0.2%	△24.2%	△36.4%	—%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期通期)	9,484	53	66	22	2.22

(2) 修正の理由

- ・営業収益につきましては、ほぼ前回発表どおりで、直近の公表値に対して 0.2%増の 92 億 20 百万円となる見込みであります。
- ・営業利益および経常利益については、運送業務をおこなう連結子会社における取扱量の減少とドライバー不足による備車比率の上昇によって運送コストが大幅に増加したことと、上海現地法人において倉庫の保管スペースの拡張に見合う物量が予定を下回ったこと、香港現地法人における取扱貨物が減少し、賃借倉庫コストを補えなかったことにより、営業利益は、直近の公表値に対して 24.2%減の 25 百万円、経常利益は、36.4%減の 35 百万円となる見込であります。
- ・親会社株主に帰属する当期純損益につきましては、固定資産除売却損 61 百万円(主な内容は下記 2. に記載)、香港現地法人における賃借倉庫内での台風による漏水事故にともなう災害補償金 28 百万円を特別損失に計上することを余儀なくされたことのほか、繰延税金資産の全額取崩による

影響額も含め法人税等調整額 2 億 47 百万円を計上することになったことから、親会社株主に帰属する当期純損益は、直近の公表値に対して 3 億 20 百万円減の 2 億 30 百万円の純損失となる見込であります。

2. 主な損失の内容

(1) 特別損失（固定資産除売却損）の計上について

当社は、東京都大田区所在の大井営業所倉庫建物を売却いたしました。この度、当該倉庫建物の帳簿価額に加えて、この売却にともなう処分費用相当額（42百万円）が確定し追加計上することになったことから、特別損失項目に固定資産除売却損として57百万円を計上することになりました。

(2) 繰延税金資産の全額取崩について

当社は、過去の業績並びに当社を取巻く経営環境を踏まえた今後の業績見通しを総合的に勘案し、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、当期末において繰延税金資産を全額取崩すことといたしました。これにより、法人税等調整額に 2 億46百万円を計上することになりました。

3. 配当予想について

平成 28 年 3 月期の期末配当予想につきましては、平成 28 年 2 月 10 日に公表した 1 株当たり 5 円からの変更はありません。（年間配当金 5 円）

(ご留意事項)

上記の業績予想につきましては、当社が現時点で合理的と判断した一定の前提にもとづいたものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上